

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490101138		
法人名	メディカル・ケア・サービス九州株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム大分けやき		
所在地	大分市大字横尾3607番地の1		
自己評価作成日	令和6年2月23日	評価結果市町村受理日	令和6年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府 壱番館 1F		
訪問調査日	令和6年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然環境に恵まれ、緑の中にホームがあります。 経験豊富なスタッフが、自立支援ケアをメインに、ご利用者様と日々過ごしています。自立支援ケアとは、ご利用者様の心身の状況や認知症の症状の情報収集と分析を行い、運動や栄養、水分等に関するプログラムを実施することで症状の緩和・改善や健康寿命の延伸、QOLの向上を目指す取り組みです。「薬の減薬や中止」「無気力状態の解消」など、何らかの改善がみられています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅や商店街の中に位置し、近隣には小学校・コンビニ・公園等があり散歩に適しています。今年度は法人(母体)や管理者の交替もあり、これまでの事業所の取り組みを継続しながら新たな風を取り入れており、管理者・職員が一つになり、事業所が早く軌道に乗れるよう全員が切磋琢磨しています。「小さな夢を叶えましょう」をモットーに利用者の思いや要望を把握し、出来る所から叶えて行く取り組みを行っています。自立支援・食事・個々に合った水分補給の工夫・減薬・無気力状態の解消・機能訓練等、利用者一人ひとりに合ったプランを作成し支援しています。人生の終盤である事業所の生活が穏やかに、思いに添ったものになるよう支援に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に唱和し、理念を共有し、実践している。	会社の理念「快適で穏やか～・地域とのふれあい～・心を込めた～」の3項目を事務室に掲示し、朝礼時に職員で唱和し共有しています。理念を理解し、どのように実践に繋げるか話し合い取り組んでいます。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員としての位置付けは、まだできていない。	コロナ禍の影響で地域交流は中止していましたが、5類への移行により交流を再開する予定です。自治会・老人会の加入・地域の清掃活動参加等、出来る事から進めて行く計画です。保育園児との交流を始めました。	運営推進会議で民生委員の参加があり、情報交換を行う中いまい何ができるかを検討し、散歩の時の挨拶等徐々に交流を増やし、今迄培ってきた地域との関係を継続されることを期待します。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けての発信は、できていない。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、地域への発信方法等、助言をいただいている。	運営推進会議を行政(地域包括支援センター職員)民生委員の参加により定期的に開催されています。事前に会議内容(テーマ)を発信し、意見等を活かしやすい工夫を行い、利用状況・活動報告・ヒヤリハット報告等検討し助言を頂いています。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡を密に取り合う、関係ではない。	運営推進会議には地域包括支援センター職員・民生委員の関係者が参加しており、情報交換等連携を図っています。市役所の担当者と協働関係を築いて行く必要があります。	市の担当者とは、管理者が直接市役所に出向き、運営推進会議の議事録や事業所の近況報告等を提出し、課題解決に向け相談や提案を頂くこともあり、市との連携と顔の見える関係づくりが期待されます。
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不適切ケアについては、スタッフにチェックシートを記入してもらい、身体拘束廃止委員会で、共有し、検討している。	身体拘束及び虐待防止について指針を定め、身体拘束廃止委員会を設置し職員の研修・勉強会等を開催しています。3ヶ月毎に虐待不適切ケア・チェックシートを職員に提出してもらい全体会議で検討し防止に努めています。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケアについては、スタッフにチェックシートを記入してもらい、身体拘束廃止委員会で、共有し、検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修も行い、活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、ご家族様のアンケートを実施し、改善に努めている。	利用者との日頃の会話の中から意見を把握し、家族と面会や電話連絡時に意見や要望を聞くよう努めています。年1回の家族アンケートを実施し、その結果をデータにし職員で共有しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度、スタッフへのアンケートを実施し、改善に努めている。	会議や3ヶ月毎の個別面談・年1度のスタッフアンケート等で、意見・要望は積極的に聞く機会を設けています。その中で日頃のコミュニケーションの中での雑談も重要視しており、出された意見は会議で取り上げ実際に試しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会が多く、トレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	九州エリアの各ホームとの交流を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援に努めている。	コロナ禍も続き、馴染みの人の面会もなくなりました。コロナの5類の移行に伴い、今年度は「小さな夢を叶えましょう」プロジェクトを立ち上げ、家族の協力を得ながら、利用者の思い・願いを聞き、叶えるための取り組みを始めました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援に努めているが、関係性が途切れることが多い。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	検討している。	本人の思いを日常の会話の中で聞き、職員で共通認識として把握しています。面会受け入れも緩和したため、家族からの希望も聞かれています。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握に努めている。			
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握に努めている。			
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	把握に努めている。	ケアプランは3ヶ月毎のモニタリングで見直しを行っています。状態の変化等の情報を共有し、プランの変更等必要性があれば職員の意見を聞き、家族への相談を行い利用者に合ったプランに変更します。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で共有している。			
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。	入所時に、本人・家族にかかりつけ医についての希望を伺いながら決めています。受診は家族対応が基本ですが、家族が送迎できない場合は施設で対応されています。家族・病院・事業所との連携を密に取りながら、適切な医療を受けられるよう取り組まれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。	入所時「重度化や終末期に向けた方針」についての説明を行っています。看取りについての研修会を、年間計画で1回行われています。勤務年数が長い職員の方が多く看取り経験も豊富です。初めて看取りを経験した職員のフォローも適切に行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身に付けている、		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は、できてない。	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を行っています。地域継続計画(DCP)の作成に取り組まれています。新体制になり、これから地域の方の協力を得られるよう今後の取り組みに期待します。	地域継続計画(DCP)作成に取り組まれています。近隣地域住民の方々との密なる協力体制の構築に取り組まれることを期待します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。	利用者をお呼びする際は必ず「さん」付けでお呼びしています。特に「スピーチロック」については職員全員で注意し、利用者の尊厳を大切に言葉掛けや対応に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には、手伝っていただいている。	食事は、毎食施設の厨房での手作りで提供されています。簡単な調理や盛り付け、後片付け等出来る方には積極的に力を発揮して頂き職員と一緒に楽しい食事作りに取り組まれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援を行っている。	居室にトイレが設置されており、気兼ねなく排泄できるように取り組まれています。毎日1500CCの水分摂取をして頂くことで、薬に頼ることなく習慣化できる排泄に努めています。排泄パターンを把握し、声掛けを行い失敗せず過ごせるように取り組まれています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合に合わせている。	浴室内は、白で統一し清潔感を醸し出しています。浴槽も大きめでゆったりと入れるよう、設置されています。基本は週2回としていますが、臨機応変に対応されています。同性介助の対応もでき、個々に添った支援に取り組まれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナウイルスが5類になってからは、外出機会が多くなった。	天気の良い日には、玄関先でランチやお茶を楽しんだり、散歩や外気欲が出来るよう椅子やベンチを配置しています。利用者の希望を伺い、利用者の発した言葉から「食べたい物」が分かれば、外食に行ったり近隣にあるコンビニへ買いに行く等の支援に取り組まれています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。	ワンフロアで広い作りとなっています。利用者が全員で顔をあわせ、楽しく食事をとったり、レクリエーション活動を楽しく行われる場となっています。現在も「共用空間をもっと生活感や季節感を醸し出すことができ、明るく快適に過ごせることが出来る様に」と家具・椅子・テーブルの配置を工夫し模索しながら快適な空間作りに、取り組まれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。	居室にトイレや洗面台が設置されています。エアコン・タンス・ベッドが備え付けられていますが、自宅で使い慣れていた物を自由に持ち込み飾っています。きちんと整理されており、個々に合った使いやすく居心地よく過ごせる居室作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。		